

公益財団法人 サントリー芸術財団 音楽事業部

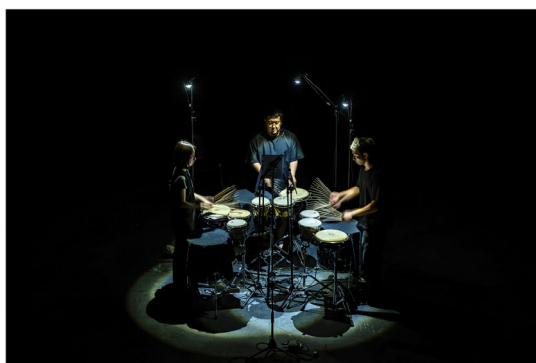
107-6019 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル19階 私書箱509号 Tel: 03-3582-1355 Fax: 03-3582-1350

Nosfa0068 (2026.3.24)

第25回（2025年度）佐治敬三賞は
日野浩志郎新作音楽公演『Chronograffiti』に決定



©Yuichiro Noda



©Yoshikazu Inoue



©Yuichiro Noda

公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤 剛、鳥井信吾）は、わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈る「佐治敬三賞」の第25回（2025年度）受賞公演を、日野浩志郎新作音楽公演『Chronograffiti（クロノグラフィティ）』に決定しました。後日贈賞式を予定しています。

●選考経過

応募のあった2025年実施公演について2026年2月23日（月・祝）当財団会議室にて選考会を開催。慎重な審議の結果、第25回（2025年度）佐治敬三賞に日野浩志郎新作音楽公演『Chronograffiti』が選定され、3月11日（水）の理事会において正式に決定された。

●賞金 200万円

●選考委員は下記の9氏

浅井佑太、伊藤制子、岡田暁生、小室敬幸、白石美雪、長木誠司、
沼野雄司、野々村禎彦、水野みか子（敬称略・50音順）

●受賞公演

日野浩志郎新作音楽公演『Chronograffiti』

<公演概要>

日 時:

7月25日(金) 19:30開演

7月26日(土) 14:30開演 / 19:30開演

7月27日(日) 14:30開演

会 場: クリエイティブセンター大阪内 Black Chamber (大阪市住之江区)

曲 目: Bongo Trio - Taiko Solo - Loose Ends - Permutation

出 演: 前田剛史、谷口かな、安藤巴 (打楽器)

作 曲: 日野浩志郎

ビジュアルエフェクト: 古舘 健

舞台監督: 小林勇陽

記録写真: 井上嘉和

宣伝美術: 真壁昂士

ビジュアルエフェクトアシスタント: 佐藤文音

制 作: 伴朱音

主 催: 株式会社鳥友会

共 催: 一般財団法人 おおさか創造千島財団「KCV セレクション」

助 成: アーツサポート関西

<贈賞理由>

《Chronograffiti》は、打楽器トリオないし和太鼓ソロ、そして最小限の照明というミニマルな手段から、音響・視覚・身体振動を統合した驚異的な没入体験をつくり上げた。作曲は実験的バンド「goat」の主宰者として主に知られる日野浩志郎。2025年6月にドイツの「Moers Festival」で初演された作品を、「Black Chamber」(クリエイティブセンター大阪)の音響を前提に改訂したものである。第1曲〈Bongo Trio〉(ボンゴ三重奏)、第2曲〈Taiko Solo〉(和太鼓ソロ)、第3曲〈Loose Ends〉(三重奏:ボンゴ・コンガのセット×3)、第4曲〈Permutation〉(三重奏:ボンゴ・コンガ・タムのセット×3)から構成される。なお、第3曲は改訂に際して書き下ろされたもので、初演時の曲目であったスネア・デュオの作品を差し替えるかたちで追加された。ビジュアルエフェクトは古舘健。演奏はクラシック・現代音楽の打楽器奏者である谷口かなと安藤巴、そして鼓童出身の前田剛史。異なるバックグラウンドをもつ奏者が共演する点も、本作の強度を支えている。

本公演がとりわけ賞賛を集めたのは、「その場の体験」としての圧倒的な完成度の高さである。会場の選択からして特筆に値する。雑多なエリアを抜けた先、大阪港に接した廃工場を改装した小ホール——場末めいた暗闇の中から、音響・視覚の両面から呪術的ともいふべき異世界が立ち上がる。ストロボライトによって奏者の動作が断片的に像を結ぶかと思えば、ボンゴの微細な倍音が頭上にちらつき、和太鼓ソロでは振動が身体の深部にまで突き刺さる。それは何の説明も要しない「ストレートなカッコよさ」の極限であり、それだけに、どのような人々をも圧倒する力をもつ。

一方で、公演記録映像のみを鑑賞した選考委員からは、純粋な打楽器作品としての新しさが捉えにくいという意見も出た。しかしそれは、現地での体験に焦点を当てた本作が、動画のフレームに収まりえない強烈な臨場感をもつことの裏返しでもある。実際、会場に足を運んだ選考委員4名からの評価は一致して高かった。なかでも第1曲〈Bongo Trio〉では、残響の変化が精妙にコントロールされ、電子音響にも似た倍音が生み出されるのだが、この種の繊細な効果はまさに現地でしか体験できないものだろう。こうした点から、本作が音楽面においても十分に新しいと確認されたことも、受賞を大きく後押しした。

最後に触れておきたいのは、客席の多くを、昨今の芸術音楽の公演では相対的に少なくなりがちな若い世代の来場者が占めていたことである。日野作品が幅広い層へとリーチし、新しい聴衆を切り開くポテンシャルを示すものといえるだろう。日野浩志郎氏ならびに出演者・スタッフの今後の活動にも大きな期待を抱かせる、極めて優れた公演であった。

(浅井佑太委員)

<略 歴>

日野 浩志郎

音楽家・作曲家。1985年生まれ、島根県出身。現在は大阪を拠点に活動。

バンド編成を用いながら、メロディ楽器を打楽器的に扱い、高度に組織化されたアンサンブルを通じて反復を興奮へと昇華するリズムアンサンブル goat を主導する他、これらの作曲思想をノイズ／ハードコア的文脈に展開するバンド bonanzas、および電子音楽のソロプロジェクト YPY を通じて、バンド、ダンスミュージック、アンサンブル、空間音響作品といった複数の形式を横断する制作を行っている。主な作曲作品に、多数のスピーカーと移動する演奏者を用いた空間音響ライブ「GEIST (ガイスト)」(2018-)、サウンドアーティスト FUJI|||||||TA と共同で作曲・演奏した「INTERDIFFUSION - A Tribute to Yoshi Wada」(2021-)、視覚と聴覚の両面からミニマリズムを再考するリズムアンサンブル作品「Chronograffiti」(2025) などがある。これらの作品では、空間化された音響、反復、身体的知覚の相互関係が一貫した主題として扱われている。2019年以降、佐渡を拠点とする太鼓芸能集団 鼓童 と継続的に協働し、伝統的な身体技法と現代的作曲手法の接続を試みている。佐渡島での長期滞在制作を経て完成した音楽映画『戦慄せしめよ/Shiver』(2021、監督：豊田利晃)では全編の作曲を担当し、演奏を鼓童が担った。

音楽家・演出家 カジワラトシオと舞踊家・振付家 東野祥子によって設立された ANTIBODIES Collective に所属し、ダンスや映像との協働も多い。これまでに振付家 Cindy Van Acker による舞台作品『Without References』、映画『The Invisible Fight』(2024年公開、監督：Rainer Sarnet)などの音楽を制作。同作によりエストニア・フィルム・アワード (EFTA) 2024 最優秀作曲賞を受賞。

古舘 健

アーティスト、エンジニア、ミュージシャン。コンピュータとプログラミングを中心に、サウンド、映像、電子回路、テキスタイルなど、多様なメディアと分野を横断して活動している。2002年、参加型サウンドアートプロジェクト「The SINE WAVE ORCHESTRA」を共同設立。2013年より Dumb Type のメンバー。

2015年、アルゴリズムによる複雑なテキスタイルデザインの生成を探るプロジェクト「Quasicrystal」を開始。2018年、サウンドインスタレーション《Pulses/Grains/Phase/Moiré》で第22回文化庁メディア芸術祭アート部門大賞を受賞。2022年、Dumb Type のメンバーとしてヴェネチア・ビエンナーレ日本館にて個展。多様な表現手法を通じて、それぞれのメディアが持つ固有の特性を際立たせる作品を制作している。

前田 剛史

阪神淡路大震災の復興活動の一環で幼少期より和太鼓に親しみ、2008年より「太鼓芸能集団鼓童」入団。約10年間に在籍し年間100公演を超える国内外のツアーに参加。鼓童在籍中は太鼓演奏、唄、笛、鳴り物、踊りを担当。その他、作曲や舞台演出もこなし「佐渡国際芸術祭アースセレブレーション」、鼓童における全国の「学校公演」、特別演出公演「若い夏」など、多数の舞台演出を手掛ける。また歌舞伎俳優で人間国宝の坂東玉三郎と「アマテラス」「幽玄」で共演。

国内ではその他にもヴァイオリニストの川井郁子や、演歌歌手の坂本冬美、アーティストのA I (アイ)、音楽家／映像作家の高木正勝などその他にも多数の国内外のアーティストとの共演実績がある。2017年に鼓童独立後、現在はソリストとしてこれまでの経験を活かし独自の音楽性、演奏表現を追求している。

谷口 かな (2026年から「芦田かな」に改姓。)

1993年生まれ、京都市出身。京都市立京都堀川音楽高校、京都市立芸術大学の打楽器科を卒業。卒業後はフリーランスの音楽家として室内楽を中心に活動。在学時から継続して他分野との即興演奏に力を注ぎ、各地で様々なアーティストと表現を行う。近年はヴィブラフォンでの演奏活動に最も力を入れている。23歳よりガムランを使用した現代音楽の初演や演奏を数多く手掛ける。サラマンカホール主催「ぎふ未来音楽展 2020 三輪眞弘祭 -清められた夜-」(2020) や、サントリーホール主催「サマーフェスティバル 2023」の《ザ・プロデューサー・シリーズ「三輪眞弘がひらく ありえるかもしれない、ガムラン」》等に出演。「オーケストラ・プロジェクト 2022」で、ソリストとして東京フィルハーモニー交響楽団と共演。

京都芸術センターと共催の《谷口かなファーストソロリサイタル「vib.」》(2023年)では三輪眞弘氏、竹村延和氏等、5名の委嘱初演を成功させ、会場は満員の盛況。その後も定期的にソロリサイタルを開催し、ヴィブラフォン独奏曲の委嘱初演も続けている。ロームシアター京都主催「sound around 003」(2023)にて日野浩志郎氏のコラボレーションアーティストとして参加し、「Phase Transition」を初演。その後も日野氏の新作作曲作品「歌と逆に。歌に。」(2024)、 「Chronograffiti」(2025)に出演。

安藤 巴

1997年6月14日生まれ、千葉県柏市出身。音楽家、打楽器奏者。幼い頃よりピアノ、ドラムを始め、13歳から作曲を、その後本格的に打楽器を学び、東京藝術大学打楽器専攻に入学。卒業後はフリーの打楽器奏者として全国のオーケストラへの客演を中心に、現代アンサンブルへの参加、独奏の機会も多い。さらに近年は身の回りのものや打楽器を用いた自分自身の表現を模索しており、即興演奏、楽曲制作、ライブ活動も増えている。現代音楽演奏コンクール「競楽」本選出場。

第22回日本管打楽器コンクールにてパーカッション部門第1位。打楽器トリオ「トリオ・ループ」、即興音楽集団「LA SEÑAS」のメンバー、「隈研吾建築展－五感的建築－」の場内音楽を作曲および演奏。神奈川県立音楽堂「紅葉坂プロジェクト vol.2」NHK FM「リサイタル・パッショ」など出演多数。作曲を啼鵬、松本望各氏に、打楽器を竹島悟史、藤本隆文各氏に師事。(株)こおろぎ社 neoria 契約アーティスト。BONNEY DRUM JAPAN エンドーサー。

〔ニュースリリースに関するお問い合わせ・広報用画像お申し込み〕

公益財団法人サントリー芸術財団 音楽事業部

ongakujigyo@suntory.co.jp

TEL：03-3582-1355（平日10：00～17：00）

FAX：03-3582-1350

以 上

(ご参考)

佐治敬三賞について

公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤 剛、鳥井信吾）は、故・佐治敬三（サントリー元会長、サントリー音楽財団元理事長）の功績を記念して、2001年度（平成13年度）から「佐治敬三賞」を創設しました。

この「佐治敬三賞」は佐治の音楽への深い愛情と理解およびチャレンジ精神、パイオニア精神を承継し、新しい世紀のわが国における音楽公演活動の一層の振興を願って、氏の名を冠した新しい賞として制定されました。

この賞は、毎年わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈られるもので、応募のあったものの中から選定されます。賞金は200万円です。

故・佐治敬三は、早くから文化事業への支援に力を入れ、特に音楽界においては1969年（昭和44年）に鳥井音楽財団（現サントリー芸術財団）を設立、サントリー音楽賞をはじめとするわが国の洋楽の振興を目的とした諸事業のほか、東京初のコンサート専用ホール「サントリーホール」の建設・運営などを行ってきました。

1999年11月3日に急逝した佐治の遺族から“音楽界のために役立ててほしい”として遺産の一部が寄付されたことから、当財団で検討した結果、「佐治敬三賞」の創設にいたしました。

これまでの受賞公演

第1回（2001年度）

「篠崎史子 ハープの個展 VIII ～新たな領域を求めて～」

2001年10月19日 東京文化会館 小ホール

「Just Composed 2001 in Yokohama ～現代作曲家シリーズ

～大野和士が描く新世紀の音楽絵巻」

2001年8月31日 横浜みなとみらいホール

第2回（2002年度）

「アンサンブル・ノマド2002年度定期演奏会#1」

2002年9月17日 東京オペラシティ リサイタルホール

第3回（2003年度）

「現代の音楽展2003 室内オーケストラの領域 III」

2003年3月17日 東京文化会館 小ホール

第4回（2004年度）

「三井の晩鐘」

2004年10月24日 イシハラホール

第5回（2005年度）

「next mushroom promotion vol. 8 『細川俊夫～50年のランドスケープ』」

2005年10月15日 ムラマツリサイタルホール新大阪

第6回（2006年度）

「武生国際音楽祭2006」

2006年9月2日～10日 越前市文化センター 他

第7回（2007年度）

「フランス現代音楽からの潮流～井上麻子×藤井快哉DUO」

2007年11月17日 兵庫県立尼崎青少年創造劇場 ピッコロシアター

第8回（2008年度）

「実験室 vol.2 『偽のアルレッキーノ／カンパネッロ』」

2008年3月27日・28日 ミレニアムホール

第9回（2009年度）

「クロノイ・プロトイ 第5回作品展～弦楽四重奏の可能性」

2009年12月9日 東京オペラシティ リサイタルホール

第10回（2010年度）

「井上郷子^{きょうこ}ピアノリサイタル#19 モートン・フェルドマン作品集」

2010年2月28日 東京オペラシティ リサイタルホール

「東京シンフォニエッタ第28回定期演奏会 湯浅譲二特集」

2010年12月10日 東京文化会館 小ホール

第11回（2011年度）

「林千恵子メゾソプラノ・リサイタル『アペルギス&グロボカール』」

2011年7月27日 門仲天井ホール

「児玉桃ピアノ・ファンタジーvol.1」

2011年9月17日 京都府立府民ホール “アルティ”

2011年9月19日 東京文化会館 小ホール

第12回（2012年度）

「kuniko plays reich in Kyoto」

2012年3月18日 京都芸術センター 講堂

「Sep.5 2012 Thanks to John Cage」

2012年9月5日 サントリーホール ブルーローズ

第13回（2013年度）

「東京現音計画#01～イタリア特集I:」

コンポーザーズセレクション1・杉山洋一」

2013年9月13日 杉並公会堂 小ホール

「^{とうほうきたん}東方綺譚 “Nouvelles Orientales de Marguerite Yourcenar”」

2013年10月26日 津田ホール

第14回（2014年度）

「鈴木俊哉 リコーダー リサイタル《細川俊夫ポートレート》」

2014年2月11日 淀橋教会・小原記念チャペル

「ニンフェアール第10回公演 東洋と西洋の絃」

2014年7月20日 宗次ホール

第15回（2015年度）

「トム・ジョンソン《4音オペラ》」

2015年3月25日 杉並公会堂 小ホール

2015年3月28日 愛知県芸術劇場 小ホール

「DUOうたほぎリサイタル2015－春夏秋冬－」

2015年12月17日 東京オペラシティ 近江楽堂

2015年12月23日 青山音楽記念館 バロックザール（京都）

第16回（2016年度）

「伶楽舎第十三回雅楽演奏会～武満徹『秋庭歌一具』」

2016年11月30日 東京オペラシティ コンサートホール

第17回（2017年度）

「三輪眞弘+前田真二郎 モノログ・オペラ『新しい時代』」

2017年12月8日・9日 愛知県芸術劇場小ホール

2017年12月16日 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

第18回（2018年度）

「第三回 伊左治直 個展 ～南蛮劇場」
2018年12月2日 求道会館（東京都文京区）

第19回（2019年度）

「THE 鍵 KEY（ザ キー）」
2019年5月19日・25日・26日
旧平櫛田中邸アトリエ（東京都台東区）

第20回（2020年度）

「ペルセポリス ～秋吉台で聴くテープ音楽～」
2020年9月5日 秋吉台国際芸術村 ホールおよび中庭
「ぎふ未来音楽展2020 三輪真弘祭 ー清められた夜ー」
2020年9月19日 サラマンカホールよりライブ配信

第21回（2021年度）

「オーケストラ・ニッポニカ第38回演奏会 松村禎三交響作品展」
2021年7月18日 紀尾井ホール
「オペラ『ロミオがジュリエット』世界初演」
2021年11月5日・6日・7日 THEATRE E9 KYOTO

第22回（2022年度）

「北村朋幹 20世紀のピアノ作品
（ジョン・ケージと20世紀の邦人ピアノ作品）」
2022年10月8日 滋賀県立美術館 エントランスロビー
10月9日 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 小ホール

第23回（2023年度）

「サウンドパフォーマンス・プラットフォーム特別公演
安野太郎ゾンビ音楽『大霊廟IVー音楽崩壊ー』」
2023年10月14日・15日 愛知県芸術劇場 小ホール

第24回（2024年度）

「山本昌史コントラバス・ソロ-The Unplugged Theatre-」
2024年1月26日・27日・28日 アトリエ第Q 藝術
「田中悠美子リサイタル2024～義太夫三味線の音響世界」
2024年12月7日 晴れたら空に豆まいて

以 上